

大地震による災害への備え

大きな地震が発生したら、冷静に対応するのは難しいことです。地震がおきても「あわてず、落ち着いて」行動する為に事前の備えと地震発生時およびそれ以降の行動パターンを覚えておきましょう。



三島市地震防災マップ

Mishima City Earthquake Hazard Map

保存版

芦ノ湖高原別荘地、市山新田、川原ヶ谷の一部、笹原新田、三ツ谷新田、谷田の一部、山中新田

自助

自分で自分や家族を守る

- 自宅の耐震診断・補強、家具の固定
- 地震が起きたら、どう行動するか
- 地域の特性や避難所の場所などを確認
- 食料と水の準備
- 非常持出品の準備と保管場所
- 災害時の連絡方法

共助

助け合って守る

- 地域の防災活動
- 誰でも安全点検
- 事業者と地域の連携
- 災害時には、助け合って救出、初動消火

公助

行政による防災・減災対策

- 公共施設を整備・拡充し、災害に強いまちづくりを推進
- 自助・共助を支援し、地域の安全を確保する

阪神・淡路大震災や東日本大震災などのこれまでの震災では地震発生直後の住民同士による助け合いによって多くの命が救われ、発災時における自助・共助の重要性が明らかになりました。「自らの生命は自ら守る」「自らの地域は皆で守る」ことを念頭に、地域の防災力を向上させましょう。

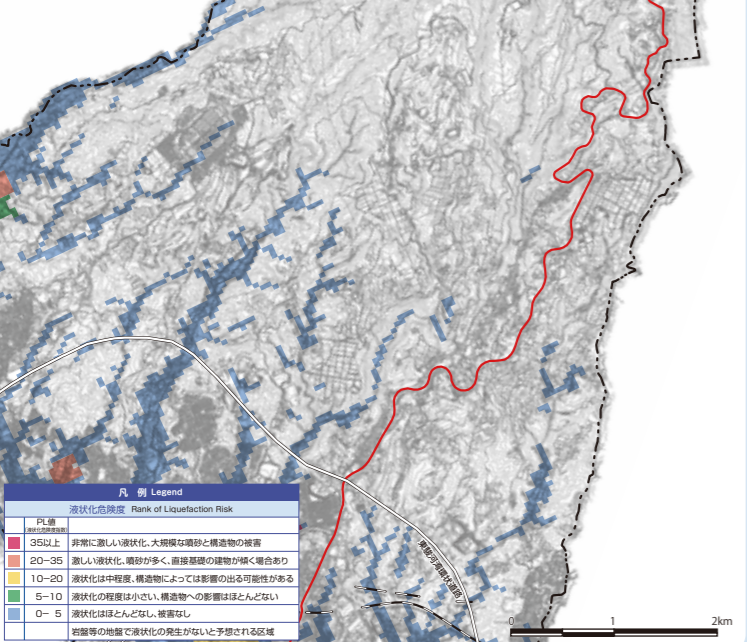
お問い合わせ先 **三島市役所 都市整備部 建築住宅課**
〒411-8666 静岡県三島市北田町4-47 TEL 055-983-2644
<http://www.city.mishima.shizuoka.jp/> 初版発行 平成26年2月 改訂 平成29年2月

液状化危険度マップ

この「液状化危険度マップ」は、地震発生時に「液状化現象」が予想される地域について、現象が発生する可能性を色分けして表示したもので、静岡県が公表した「第4次地震被害想定」で想定された結果と地形地質資料を参考に、作成しました。

液状化しやすい場所

液状化しやすい場所は、埋立地、干拓地、昔の河道を埋めた土地などが挙げられます。このような土地であるかどうかは、その成り立ちを知ることによって概ね把握することができます。詳しいことは専門家に相談して下さい。



事前の備え

いざという時に身を守り、困らないために、日頃からの備えが大切です。

備蓄品	非常持出品
<ul style="list-style-type: none"> ティッシュペーパー ウェットティッシュ ロープ 工具セット ランタン 携帯トイレ ペットのえさ 給水ポリタンク ビニール袋 水のいらないシャンプー カセットコンロ サララップ 	<ul style="list-style-type: none"> 現金・貴重品 厚手の手袋 食糧品 (備蓄は7日分) 懐中電灯・携帯ラジオ ライター・マッチ 飲料水 (備蓄は1人1日最低3リットル) 救急医療品 お薬手帳 生理用品 常備薬 衣服 (長袖・長ズボン) 防寒衣 (上下) 寝袋 携帯カイロ 毛布 長靴

継続的に防災訓練に参加しましょう。

家の中に、家具のない安全なスペースを確保する。部屋の複数ある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配慮を要する。

家・塀の強度点検と補強。ブロック塀、石塀などの倒壊は、施工上の欠陥によるものが多い。もう一度家や塀を点検し、欠陥があるものは補強する。

ストーブの周辺はすっきりと。ストーブは障子、ふすま、カーテンなどからは離し、人の動きのしやまにならない位置に置く。

ガラスの破片に注意。台所などには座布団やスリッパなどを常備しておく。

プロパンガス。ボンベをしっかりと固定する。

家具の固定と安全確保。家具を固定しましょう。天井に固定。ガラス飛散防止フィルムを貼る。扉に家具をつける。

家族会議。家族があわてずに行動できるように、ふだんから次のようなことを話し合いそれぞれの分担を決めておきましょう。

- 家の中でどこが一番安全か。
- 昼の場合、夜の場合の分担と避難方法。
- 避難する時は、だれが何を持っていくか。
- 非常持ち出し袋はどこに置くか。
- 避難場所、避難路はどこにあるか。
- 救急医療品の点検。
- 家族間の連絡方法と最終的におち合う場所はどこにするか。

各種補助制度

- わが家の専門家診断事業** 木造住宅を対象に三島市から専門家を派遣し、無料で耐震診断が受けられる制度です。窓口・電話及び市ホームページ電子申請により申し込みを受け付けています。
- 木造住宅補強計画策定事業** 高齢者等世帯が居住する木造住宅を対象に三島市から専門家を派遣し、無料で補強計画の策定を行います。
- 既存建築物耐震診断事業** 木造住宅の場合は耐震補強工事を行うための耐震補強計画の作成費を、その他の建築物については耐震診断費用に要する経費の一部を助成します。
- 木造住宅耐震補強助成事業** 木造住宅の耐震補強工事に要する経費に対し助成します。
- ブロック塀等耐震改修促進事業** ブロック塀等の撤去にかかる費用の一部を補助します(撤去事業)。また、地域防災計画で設定されている緊急輸送路、避難路又は避難地等に面するブロック塀等を、安全なものに改善する費用の一部を補助します(改善事業)。
- 家具転倒防止事業** いつ起こるかかわからない巨大地震への対策として、家具の固定をお願いします。対象となる世帯に5品までの家具固定器具の取付けにかかる費用を市が負担します。
- 耐震シェルター整備事業** 高齢者等世帯が居住する木造住宅に耐震シェルターを設置する場合、耐震シェルターの設置に要する経費に対し助成します。

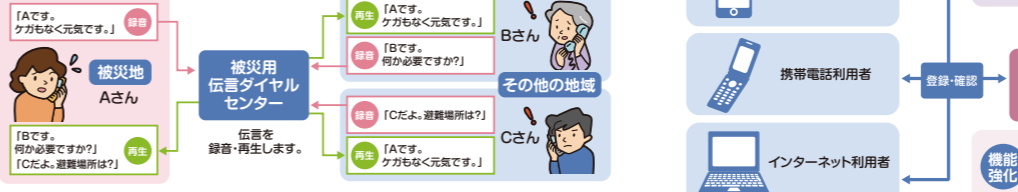
地震発生時

落ち着いて行動する為に行動パターンを覚えておきましょう。

地震発生	1~2分後	3~5分後	5分~数時間後
<p>【あわてない】</p> <p>● 落ち着いて行動する。</p> <p>【身を守る】</p> <p>● 机の下に入る。</p> <p>● 座布団などで頭を守る。</p> <p>● 窓や家具から離れる。</p> <p>【係員、乗務員の指示に従う】</p> <p>● 避難時にエレベーターを使用しない。</p> <p>【天井、荷物棚からの落下に注意する】</p> <p>● エレベーターの中では、すべての階のボタンを押し、最初に停止した階で降りる。</p>	<p>【火を消す】</p> <p>● ガスやストーブの火を消す。</p> <p>● 火災は消火器等で消す。</p> <p>【スリッパ・靴等を履く】</p> <p>● 家の中でもガラス片で怪我をすることがある。</p> <p>【家族の安全確認】</p> <p>● おどろき〜!</p> <p>● 大声で家族の安全の確認を行う。</p> <p>【避難用出口の確保】</p> <p>● 戸や窓を開ける。</p> <p>土砂災害等の恐れがある場合は必ず避難</p>	<p>【テレビ・ラジオで正しい情報入手する】</p> <p>● 「大丈夫」という場合には、黄色いハンカチをドアノブに付ける。</p> <p>【近所の人への安否確認】</p> <p>● 「大丈夫」という場合には、黄色いハンカチをドアノブに付ける。</p> <p>【非常持出品の準備】</p> <p>● エレベーターの中では、すべての階のボタンを押し、最初に停止した階で降りる。</p> <p>家屋倒壊の恐れがある場合は避難</p>	<p>【子どもを迎えに】</p> <p>● 家を出る前に火災防止のためにガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切る。</p> <p>【一時避難地に集合】</p> <p>(地区集会所・近くの公園等)</p> <p>【負傷者への応急手当】</p> <p>● 協力して救護活動を行う。</p> <p>【建物に閉じ込められた人の救助】</p> <p>● 協力して救助活動を行う。</p> <p>【火災の消火活動】</p> <p>● 大声で火事を知らせる。</p> <p>● 協力して消火活動を行う。</p>

災害伝言ダイヤル「171」

地震など大規模な災害が発生した時、安否の確認や見舞い、問い合わせなどの電話が被災地に集中し、電話がつかない状況になってしまいます。災害用伝言ダイヤル「171」はこのような災害発生時に、被災地内の電話番号を使って、安否等の情報を音声により登録・確認出来るサービスです。



伝言の録音方法

録音の場合 1

171にダイヤルする

録音可能な時間帯

録音可能な電話番号

録音可能な時間帯

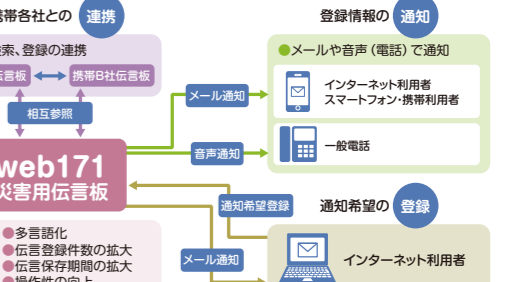
伝言保存期間

事後

助け合いの心で災害を乗り越えましょう。

数時間~3日程度
<p>状況に応じて冷静に判断</p> <p>自宅が無事 → 自宅で生活する場合</p> <p>【家の被害を点検する】</p> <p>● 数日間はライフラインが停止することがある。</p> <p>【定元の片付けをする】</p> <p>【備蓄品で生活する】</p> <p>【近所どうし協力しあって避難所へ】</p> <p>【徒歩で避難する】</p> <p>【要配慮者の支援・協力】</p> <p>● 高齢者や障がい者など要配慮者の支援・協力は、積極的に行いましょう。</p>
<p>自宅が焼失、全半壊 → 避難所に移動する場合</p> <p>【ガスの元栓を閉めブレーカーを切る】</p> <p>【避難所の開設状況も踏まえ、避難所を確認する】</p> <p>【危険な場所から離れる、近づかない!】</p> <p>【荷物は最小限に】</p> <p>避難所では</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自主防災組織を中心に行動する。 ● 集団生活のルールを守る。 ● 助け合いの心で。 <p>避難の時の服装</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 頭部は、防災ずきんやヘルメットで保護する。 ● 服装は長そでを着用。 ● 手袋を常用し、手にはなにももたない。 ● 長ズボンを着用。 ● 底の厚い、丈夫な靴。

災害用伝言板「web171」



緊急速報メール(エアメール)配信について

三島市では、携帯電話向け災害情報伝達システムについて、株式会社NTTドコモが提供する緊急速報「エアメール」、KDDI株式会社およびソフトバンクモバイル株式会社が提供する「緊急速報メール」の配信を行っております。受信可能な機種や設定方法など、詳しくは携帯電話購入店にお問い合わせいただくか、各社のホームページをご覧ください。

